

ベトナム兵士の 作り方 Part1

イラスト/M.Kelly 構成/編集部

Cover Illustration
M. Kelly(Satoshi Okada)
© WORLD PHOTO PRESS 2020
※本文中の価格は消費税込みの総額表示です。

CONTENTS

004 **LRRP**
Hotel Rangers
ホテル レンジャーズ by Jay Borman
一番乗りの仕掛人たち



012 第17回 **サイゴン物語 Saigon Memories**
ブンタウの水の上の生活 Part 2

月刊 **THE グリーンベレー**
047 **GREEN BERET**
SYRIA 2019 ●文と写真/DJちゅう

東京マルイ
比類なき重厚感を体感せよ!
054 **次世代電動ガンMk46 Mod.0**

サバゲ三等兵装備列伝!
060 **新春新人射手新進CQB**
ショートスコープSHOW!

Militaria Roundup!
064 **WWIIドイツ陸軍/武装SS将校ユニフォーム**
Part 1

WESTERN ARMS
070 **V10 HI-CAPACITY ELITE**

WESTERN ARMS
075 **COLT M1991A1 COMPACT HEAT CUSTOM**

ニッポンのちからこぶ
078 **島嶼防衛最前線** ●写真と文/菊池雅之

082 **トイガンニュース**

- WA ベレッタM9《ハートロッカー/バトルダメージVer.》
- タナカ SIG P220 IC《航空自衛隊 HW》
- タナカ コルトハイゾン.357マグナム4インチ(R-モデル/ステンレス・フィニッシュ)
- タナカ S&W M29カウンターポアード4インチVer.3《スチール・フィニッシュ》
- タナカ S&W M65 .357マグナム3インチVer.3
- タナカ SIG P220陸上自衛隊(EVO2フレームHW)

世界最大規模の防衛・危機管理見本市

086 **DSEI2019**

●レポート/清谷信一 (Shinichi Kiyotani)

新製品てんこ盛り!

092 **COMBAT mono**

サバゲ三等兵APS部

094 **いざ進め!ダットサイト道。**
あるいはVショーへの道のり。

COMBAT FRONT LINE

- 018 KRYTACミーティング2019
- 020 IMAX上映決定!『地獄の黙示録 ファイナル・カット』
- 022 新春Recommend MOVIE『1917』 by 狩野健一郎
- 097 コラム ベトナムを遠く離れて——。文/小倉 徹
- 098 ゲームOTT『龍が如く7 光と闇の行方』
- 099 レアミリタリーテクノロジー
- 100 USシューティングライフ
- 101 ツゲチヨリ☆シューティング武者修行への道~GUN殺陣~
- 108 PRESENT
- 109 CIC
- 110 バックナンバー
- 111 奥付&次号予告



特集

予習も復習もこれでOK!
NAM戦マニアの教科書

ベトナム兵士の 作り方

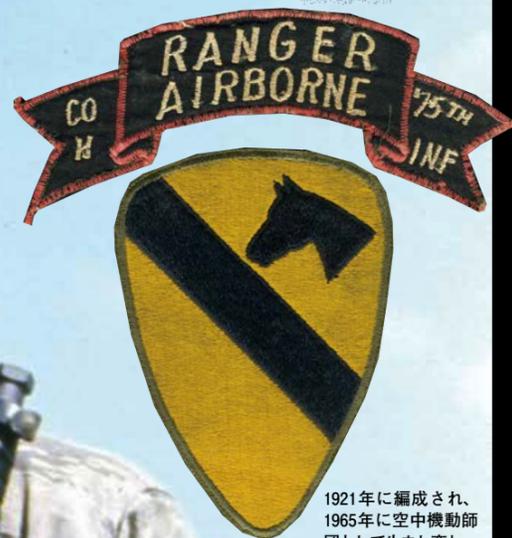
Part 1

リニューアルした2018年の4月号以降、渾身のベトナムネタをお届けしているCOMBATマガジン。その影響もあってか嬉しいことに最近では新しいファンが増えつつある(…ような気がする)。そこで、新規NAM戦マニアをさらに増員すべく、ベトナム装備コレクションに必要なアイテムを徹底紹介する「ベトナム兵士の作り方」なる企画をスタートします! 第1回となる今回は“歩兵”を徹底紹介。知ってる人も知らない人も基礎から学んでゆきましょう! エピバデ、2020年も引き続き、気合入れてNAMってこうぜ~!

●イラスト/M.Kelly ●文/鈴木健太郎 ●構成/COMBATマガジン編集部

- | | | | |
|--------|----------------|--------|----------------|
| P24-25 | イントロダクション | P34-35 | GRUNT 機関銃手 |
| P26-27 | GRUNT ライフルマン | P36-37 | COLUMN 03 & 04 |
| P28-29 | GRUNT ライフルマン 2 | P38-39 | GRUNT 榴弾手 |
| P30-31 | COLUMN 01 & 02 | P40-41 | LRRP |
| P32-33 | GRUNT 無線通信手 | P42-43 | SOG |
| | | P44 | COLUMN 05 |

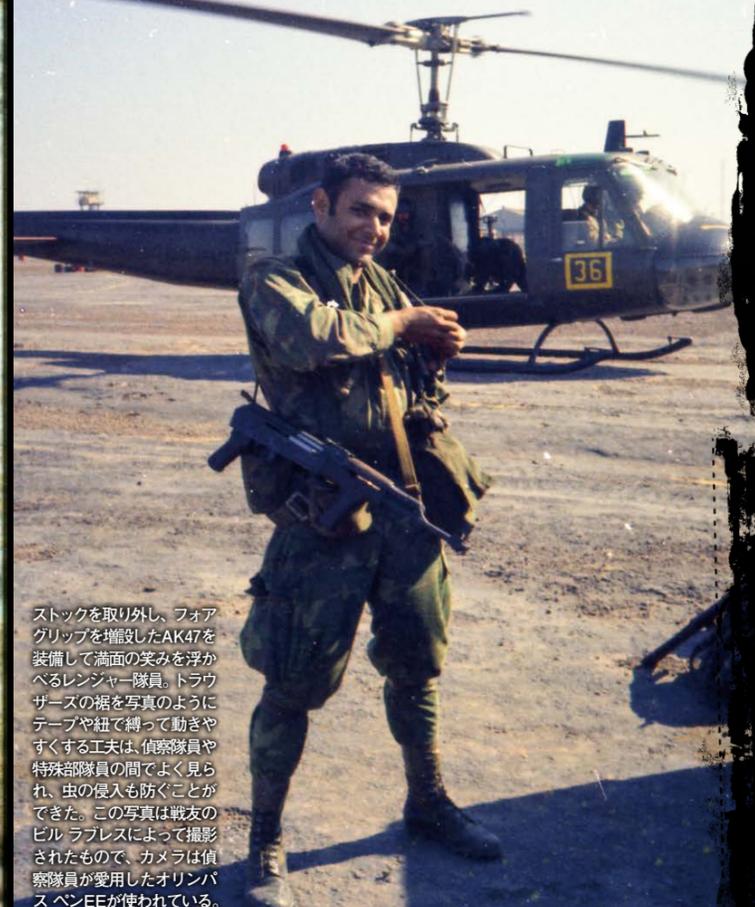
鹵獲したAK47(中国製56-1式)を手にするH中隊のレンジャー。彼が着ているタイガーストライプ迷彩服は上下で迷彩パターンが異なる他、ディテールにも違いが見られ、ジャケットは袖にポケットのないアジアンモデルだが、トラウザーズはカーゴポケットの下に小型ポケットを備えるUSモデルであることがわかる。左肩の空軍用サバイバルナイフは抜きやすさを重視して逆さに付けられることが多いのだが、通常の向きになっているのが興味深い。山岳民族から友情の証として贈られた右手のブレスレットにも注意。



1921年に編成され、1965年に空中機動師団として生まれ変わった第1騎兵師団のSSIは兵科色の黄色を基調とし、黒い斜線はサーベルを下げるサムブラウンベルトの斜線を表している。師団の愛称は「First Team」で、ベトナム戦争では全ての軍官区で戦った唯一の師団となった。SSIの上にはH中隊を示すレンジャースクロールが追加されている。



テックス・ウィリアムス4等特技兵が肩から下げているのは第2次大戦時代のM3グリースガンで、69年以降もこの年代物が使われていることを示す貴重な写真である。彼のERDL迷彩ジャケットは左胸以外のポケットが取り去られており、荷物の多い偵察隊員がポケットを増やすのではなく減らしている例は珍しい。



ストックを取り外し、フォアグリップを増設したAK47を装備して満面の笑みを浮かべるレンジャー隊員。トラウザーズの裾を写真のようにテープや紐で縛って動きやすくする工夫は、偵察隊員や特殊部隊員の間でよく見られ、虫の侵入も防ぐことができた。この写真は戦友のビル・ラフレスによって撮影されたもので、カメラは偵察隊員が愛用したオリンパス・ペンEEが使われている。

現代戦に不可欠なヘリボーン戦術をベトナム戦争で確立し「空飛ぶ騎兵」としてその名を轟かせた第1騎兵師団はアメリカ軍と北ベトナム軍の初の大規模な戦闘として知られるイアドラン溪谷の戦い(1965年11月)から1年が過ぎた1966年11月からLRRP分遣隊の編成を進め、特殊部隊で訓練を受けたジム・ジェームス大尉を指揮官とした分遣隊は1967年2月1日の活動開始時点で6人編成の偵察チームを2個持つた

けのかなり小規模なものだったが、6月に中隊として編成を遂げた際には4名の将校、114名の下士官に加え、南ベトナム軍と山岳民族からそれぞれ18名のスカウトが配属されており、山岳民族をLRRPのスカウトに採用したのはこの師団が最初であった。第1騎兵師団のLRRPはDMZ(非武装地帯)を超えて南ベトナムに侵入する北ベトナム軍に対し第1騎兵師団、第25歩兵師団第3旅団と南ベトナム軍第22師団、韓国軍首都

師団が合同で実施したオペレーション・バーシング(1967年2月~1968年1月)で情報収集を行なう中、1967年12月20日に第52歩兵中隊(LRP)と改称し、1968年にはケサン基地への救援作戦として有名なオペレーション・ベガスや、アシャウ溪谷での空襲急襲作戦では陽動から通信保全に至るまで幅広い任務を手掛けると、1969年2月1日に第75歩兵連隊(レンジャー)H中隊として再編された際にHの音声コードであ

るホテルの名をとってホテルレンジャーズと呼ばれるようになった。1970年のカンボジア侵攻では北ベトナム軍と解放戦線の拠点となっていたサイゴン北西約80キロの釣り針地区で師団を支援し、1972年8月15日に正式に活動を停止したH中隊はベトナムにもっとも長く留まったレンジャー中隊となり、この戦争で最後に戦死した陸軍兵士、エルビス・オズボーン軍曹とジェフリー・マウラー伍長もH中隊の所属であった。

LRRP

Hotel Rangers

ホテルレンジャーズ 一番乗りの仕掛人たち

主力部隊の目や耳となって敵状を探るだけでなく、必要とあらば待ち伏せへのカウンター攻撃やハンターキラー任務まで自在にこなすLRRP(Long Range Reconnaissance Patrol=長距離偵察部隊)。ベトナム戦争で一躍有名になった彼らの活躍を余すところなく伝えるシリーズ。今回は第1騎兵師団の特集です。映画「地獄の黙示録」で見られるド派手な空中強襲を得意とするこの師団は、偵察部隊もそれに負けない迫力を持っています。

by Jay Borman 構成/鈴木健太郎
コーディネート/河村喜代子



M203グレネードランチャーを付けたM16を持つステファン・バッフェル4等特技兵。胸のグレネードベストは68年から支給された新型で、24発の40ミリグレネードを収納できる優れものだが、M16とのコンビネーションとなるとライフル用の弾倉も持たなければならず、弾薬だけでもかなりの重量になった。腰の水筒カバーにはそれぞれ7本のM16用20連弾倉が入るから、24発のグレネードと14本のM16用弾倉のほか、さらに予備をリュックサックに入れて長距離を歩くLRRPはかなりの体力のいる仕事である。

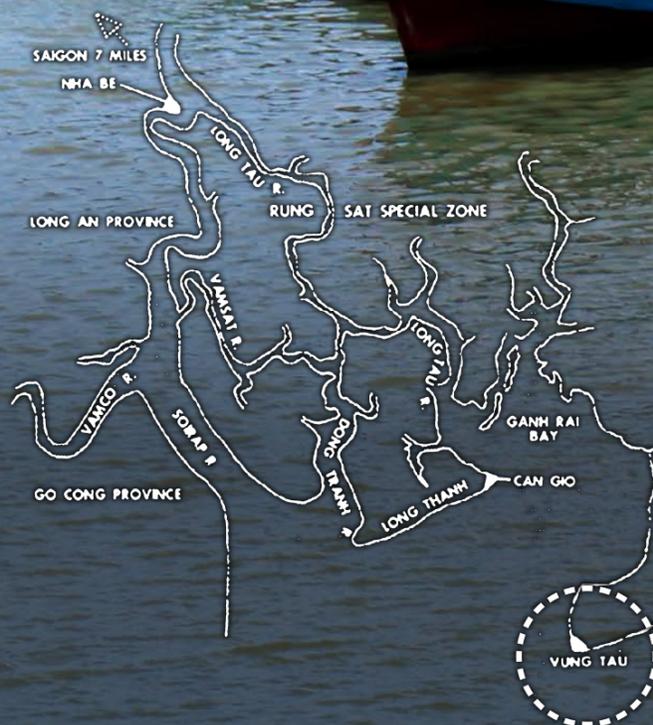


第17回 サイゴン物語 Saigon Memories

ブンタウの 水の上の生活 Part 2

高いところに架かっている斜張橋からは、ゴミの吹きだまりに見えた。それがブンタウの水に浮かんだ養殖場、フォーティンギレッジだった。換金価値が抜群のロブスターを筆頭に、カニやエビ用の生け簀が浮かんでいる。エビは沖合に小屋を建てて、そこで寝泊まりしながら世話をする。水に浮かぶ村では衛星アンテナを立てて、テレビも受信できる。学校に通う子どもがいる家では、バスが通る棧橋まで、朝晩、送り迎えが欠かせない。

文 / コンパットマガジン編集部 Text/CM Editorial Staff
写真 / 今井今朝春、WPPコレクション Photo/Kesaharu Imai, WPP Collection



ベトナム語でブンとは湾の意味がある。タウは船。船が泊まる場所、港とは、風を待ったり、風を避けたりする自然条件に恵まれていた土地だったことになる。フランス植民地時代には、インドシナ総督がここをリゾート地を選び別荘を建てた。そしてパート1でも触れたとおり、ベトナム戦争当時は、主にオーストラリア軍とニュージーランド軍が、この町に駐屯した。なかでもオーストラリア陸軍が、ここを物資補給の中核にしていた。サイ

ゴンと距離的に近かったので、R&Rの目的地としてアメリカ兵が集まった。ベトナム戦争の混乱が収まると、ベトナムは産業化へ向けてギアチェンジする。その矢先の1981年に、バリア-ブンタウの沖合で石油が見つかる。外国企業とジョイントベンチャーを組んで、石油会社が設立される。組んだ相手は、ロシアだ。もと共産国という共通項を持つロシアとは、大規模プロジェクトから足下にいたるまで、幅広い結びつきがある。

ホーチミン市からブンタウまでは、水上交通を利用することもできる。高速水中翼船による航路が、1996年に運航開始されている。ベトナムの総合情報サイトの「ベトジョー」によれば、最盛期には20隻もの船が就航していたという。現在は、利用客を大幅に減らしている。ホーチミン市とロンタインとザウザイ間の高速道路が開通したからだ。そこにバス路線が開通されると、時間はほぼ変わらず運賃は安いとなれば、船に勝ち目はなくなる。

SYRIA 2019



月刊



THE GREEN BERET vol.16

比較的少し前の年代を紹介することの多い当連載ですが、今回はパチパチに新しい2019年シリアに派遣されている5thSFGのスタイリングをご紹介します。さらにもう一段階新しいものを取り入れた最新スタイルも構想していますので、それは今後の連載でいつかご紹介できたらと。

中東情勢ですが、先日ついにシリアから米軍の完全撤退を発表したトランプ大統領。クルド勢力下の国境付近など、年々激しくなるトルコによるシリア国境付近への侵攻が拡大している最中の発表で「クルドを見捨てた」などと批判の声が上がったりもしましたね。

シリア北東部国境付近から撤退したアメリカ軍に代わり、トルコ軍侵攻を食い止めるためアサド政権がクルド勢力と合意を結んだり、数年前に比べ情勢は大きく変わりつつあります。幅を利かせていたISISによる大幅な国土占領もかなりの規模で縮小。それに加えISIS討伐を目的に展開していた米軍の撤退。そして隙を見てトルコがクルド人勢力への攻撃

を開始。みかねてトルコに対抗するためにシリア政府がクルドを支援するというのがざっくりとした構図となっています。後ほど詳しく記述していますが、イラクの基地から車列を組んでシリアへ入ったり油田警備にグリーンベレーを配置したりと、まだまだ米軍は兵力をシリアに残す意向であるようです。締めには昨年12月開催された魔肖之世界観レポートもご紹介しますよ。

さて、昨今めまぐるしく変化する

そんな中、もともと敵対関係にいたシリア政府とクルド勢力ですが、



東京マルイ

東京マルイ ☎03-3605-3312
http://www.tokyo-marui.co.jp/
●写真・文/小林の世界
●撮影協力/ホビーショップフロンティア
http://www.frontier1.jp
MMS http://mms-typed.com

威風堂々!

さらなる高みへ到達した次世代電動ガン

Mk46 Mod.0



発表以来常に話題をかつさらってきた
東京マルイ初のLMG次世代電動ガンMk46 Mod.0。
待望の発売から早1ヵ月——。
リアルな外観に加え、リコイルアクションやさまざまなギミックで
ユーザーから高い評価を得ている話題のガンを徹底レポート!



Militaria Roundup!

Part.1

WWIIドイツ陸軍 / 武装SS将校ユニフォーム



1918年の第1次世界大戦敗戦でドイツ帝国軍は解体され、その翌年に共和国軍(Reichswehr)が誕生した。共和国軍はヴェルサイユ条約で兵力と軍備を厳しく制限されたが、'33年にアドルフ・ヒトラー率いるナチ党が政権を掌握。'35年3月16日には条約を破棄し再軍備を宣言。これにより徴兵制が復活し、軍の名称も国防軍(Wehrmacht)に変更されている。写真は国防軍(陸軍)兵士を閲兵するヒトラー。

ドイツ帝国軍の将校

ドイツ帝国で将校となるためには、その人間が「将校適正階級」である事が要求されていた。これに相当するのは中・高級官僚、貴族、現役または退役将校といった階層の息子だった。それ以外のいわば「下層」階級で将校を志す者は砲兵などの技術兵科を選ばなければならなかった。帝国時代の将校養成施設はドイツ国内11ヵ所に設置された「幼年学校(Kade

ttenschule)」と、ベルリンのリヒターフェルデに置かれた「陸軍士官学校(Hauptkadettenanstalt)」で、前者が最低で10歳から、後者が14歳以上を生徒として入校させた。また士官学校は幼年学校卒業生(幼年学校の教育期間は2年半)も入学させている。ちなみに幼年学校は連合国から軍国主義の温床と見なされ、第1次世界大戦後にヴェルサイユ条約で廃止された。

各国軍では士官学校生徒は卒業時に少

各国軍隊のミリタリー・ユニフォームは時代や国によってさまざまなスタイルとデザインを持つが、その中でもっとも「軍服」を感じさせるのがWWIIドイツ軍の将校用ユニフォームだ。今回のシリーズではそれら将校用ユニフォームの基本と、ドイツ陸軍将校の背景を紹介していこう。

- 解説: 菊月俊之 ●写真: 青木健格
- 撮影協力: ●S & Graf Tel.072-875-7741 <https://www.sandgraf.jp/>、●カンパタリオン! ☎042-309-1911 (<http://www.kampfbataillon.com/>)、●サムズミリタリヤ ☎03-3971-4935 (<http://www.sams-militariya.com/>)

尉に任官するが、ドイツの場合はその限りではなかった。士官学校生徒は、第11学年修了時(18歳くらい)に少尉候補生試験を受け、それに合格すると、「帯剣待遇少尉候補生(階級は軍曹の上)」として、連隊に入隊する。ただしこの時点で指揮権は認められず、それが与えられるのは連隊長が帯剣を認めて「有権少尉候補生(階級は曹長の下)」となった後であった。一方、少尉候補生試験に合格できなかった者(多数派だった)は軍事学校(Kriegsschule: クリークスシューレ)に入学し、8ヵ月から1年半の教育を受けた後に少尉に任官する事ができた。ちなみにドイツ帝国陸軍で少尉に任官するのは通常19歳だったという。

第三帝国の誕生とドイツ将校

このようにドイツ陸軍の将校任官はかなり複雑だったが、軍の規模が拡大すると「将校適正階級」だけでは需要を満たす事ができず、第1次世界大戦では多数の「平民」が将校に任官する事となった。戦後のヴェルサイユ条約でドイツ軍はその規模を制限され、共和国軍(ライヒスヴェアー)の将校定数は4,000人に縮小された。これは帝国時代よりも「将校適正階級」の占める割合を高める事となり、1920年代後半における現役将校の90%が「将校適正階級」で、そのうちの24%が貴族だった。この結果、帝国時代からの伝統主義と身分制度意識がそのまま継承される事となった。

1930年から陸軍は戦時に兵力を3倍化するという計画を立案するが、これは'33年のヒトラー内閣成立によって加速され、'39年の開戦時には実に5倍に相当する51個師団を保有するに至る。その過程で問題となったのが将校の確保だった。前述したように第1次世界大戦後のヴェルサイユ条約でドイツ陸軍将校の定数は4,000人とされていたが、その内の450人は軍医および獣医で、'35年に空軍が創設されると500人が空軍将校として転出。そこで将校の確保が急務となり、軍に準じる訓練を受けた警察のメンバーや、選抜された下士官を将校に登用している。こうした軍の「大衆化」と前述した「軍事技術近代化」の流れを受けてドイツ将校

1926年に撮影された演習中の共和国陸軍将校。右から2人目がナチス時代に国防軍統帥部長を務めたアルフレート・ヨードル大尉(最終階級は上級大将)。彼らのユニフォームは共和国陸軍時代に制定されたもので、今回紹介する国防軍時代の制服とは襟の色やポケットなど各部に違いが見られる。



ジオラマを使用して下士官に戦術講義を行なう将校。ドイツ陸軍で将校となるにはさまざまな制約があったが、下士官から将校に任官する道も開かれており、①現役将校候補者、②予備役将校候補者の制度が設けられていた。また戦時に将校の損失が多くなると、下士官から将校に任命されるケースも多くなっている。下士官から昇進した将校は「戦時将校(Kriegsoffizier)」と呼ばれ、その身分は戦時限定だった。

団における「将校適正階級」の地位は低下し、将校と兵士の関係(身分的隔離)も改善される事となったという。

戦争で変化した将校昇進基準

再軍備によってドイツ陸軍の規模は急激に拡大したが、第2次世界大戦初期まで将校の任官と昇進は基本的に帝国時代の制度が踏襲されていた。しかし戦争の長期化で人的損害が増大すると、旧来のシステムでは必要な将校の数を確保するのは困難となった。これを受けてヒトラーは1942年11月に将校の昇進基準を変更する。

それは戦場で並外れたリーダーシップと能力を示した将校は年齢や年功を問わず、それに応じた階級に昇進させるというものだった。戦闘では将校の損害も多く、部隊で唯一生き残った下級将校(少尉や中尉)が中隊長を務めるという事も珍しくなかった。そして昇進基準の変更により、中隊長を務めた少尉(通常は小隊長)は2ヵ月後に中尉に、さらに大隊長となった場合は6ヵ月以内に中尉から大尉に昇進するケースも存在した。ただし大佐から少将に昇進するには1年間の前線勤務が必要とされている。

参考までにドイツ帝国陸軍将校の平時にける昇進はゆっくりとしたもので少尉から大尉に昇進するには15年かかり、少佐に昇進するにはさらに10年を要した。このため少佐の階級で退役する将校が多数を占めたという。

陸軍将校のユニフォーム UNIFORMIERUNG für OFFIZIER

一口に軍服といってもその目的や用途に応じて種類が存在する。その分類は各国軍で基本的に同じで、第2次世界大戦時におけるドイツ軍では、①通常軍装(Dinstanzzug)、②礼装(Ausgehanzug)、③オーバーコート(Mantel)、④作業服(Drillchanzug)、⑤体操着が基本で、階級による別が存在。ちなみに④の作業服は下士官兵用となっている。

①の通常軍装は通常の勤務や外出時に着用するもので、将校は非公式の会食時のほか平服としても着用した。通常軍装は制帽(または略帽)、上着、ズボン、靴(ブーツ)等で構成され、各種野戦装備を着装すれば「野戦軍装」となる。②の礼装はパレード、各種儀式、外出などの際に着用(ドイツ陸軍ではさらにバリエーションが存

在)の。③のオーバーコートは冬期の防寒服で、通常軍装、野戦軍装、礼装、外出着の上から着用する。そして④の作業服は各種雑役や訓練科に着用し、⑤の体操着は各種体育演習時に着用されている。

これらユニフォームは下士官兵に対して支給されたが、将校は職業軍人であるため、そのユニフォームは自分で購入した(これは各国軍で共通)。ドイツ軍では購入のための一時金として350~450ライヒスマルクが支給されたほか、ユニフォームの維持費として月額30ライヒスマルクが支給されていた。なお今回の特集では将校用ユニフォームを①通常軍装、②礼装、③野戦軍装の3つに分け、それぞれで着装するユニフォームを紹介させていただく。

通常軍装 / 将校用フェルトブルセ FELTBLUSE für OFFIZIER

今回の特集では将校ユニフォームの基本となる通常軍装から話を始めていこう。ちなみにドイツ軍では通常軍装で着用する上着を「フェルトブルセ」と呼んでおり、直訳すると「野戦服」の意味となる。ドイツ陸軍将校が第2次世界大戦中に着用したフェルトブルセは1933年に共和国陸軍が制定した折り襟で4つポケットの上着が基本とされ、共和国軍が国防軍へと移行する過程でデザインに変更が加えられている。

将校用フェルトブルセは下士官兵用1936年型フェルトブルセに似たデザインだが、下士官兵用はややルーズフィットな裁断なのに対し、将校用は腰にフィッ



襟 襟を留めるフックは下士官兵用が1つなのに対し将校用は2つで、襟は高く見た目の良いデザインとなっているのが特徴。共和国陸軍の襟の色は服と同じフィールド・グレーだったが、1935年にブリッシュ・ダークグリーンに変更。また翌年には襟の形状も礼服と同じ裁断に変更されている。



袖口のカフス 下士官兵用フェルトブルセの袖口はカフスは付かずボタンで閉じるが、将校用では袖口を約16cm折り返したカフス式になっているのが特徴。



陸軍将校が通常軍装として着用したフェルトブルセ。この上から各種装備を着装すれば野戦軍装となるが、その際多くの将校は別に野戦専用に着替えたものを着用する事が多かった。外観は下士官兵用の1936年型フェルトブルセ(右写真参照)と似ているが、使用生地はより高級で、よりスマートに見えるように裁断されているのが特徴。上着の下にはフィールド・グレーのシャツを着用し、黒のネクタイを締めるものとされ、1943年にはネクタイが見えるように上着の襟を開いて着用する事が認められた(それ以前は命令(上官の許可)があった場合に限定)。また物資不足のため、'44年にはオリーブ・グリーンのネクタイの着用も認められた。ちなみに今回紹介した将校用勤務服は、襟章と階級章、そして肩ボタンなどは別売りなので、別途購入する必要がある。(撮影協力: カンパタリオン!!/M35将校ウールタイプ勤務服/価格1万6,500円)

ポケット

フェルトブルセには両胸と両裾の4ヵ所にプリーツ付きのパッチ(貼り付け)・ポケットが設けられた。共和国陸軍当時のものは裾ポケットがフラップ付きの斜め(斜め)・ポケットだったが、国防軍時代には胸と同じパッチ・ポケットとなった。フラップは中央と左右が尖った裁断が将校用フェルトブルセの特徴。

下士官兵用 1936年型 フェルトブルセ

こちらは下士官兵用の1936年型フェルトブルセで、素材にHBT(杉綾織り)生地を使用した夏期用。基本的デザインは将校用フェルトブルセと同様だが、襟、袖口、ポケット・フラップの形状などに違いが存在する。(撮影協力: S & Graf/HBT夏用M36ジャケット/価格1万1,800円)



観閲式で整列した陸軍将兵。襟の色と右胸の国家徽章から判るように国防軍となった後の撮影で、下士官兵は1936年型フェルトブルセを着用。ただし前列手前の将校のフェルトブルセは裾ポケットがフラップ付き斜め(斜め)・ポケットで、共和国軍時代のデザインとなっているのに注意。



肩章用ループ

肩と袖の縫い合わせ近くには布製のループが設けられているが、これは後述する肩章(階級章)着装時に使用するもの。階級章台地のタブをループに通し、ボタンで固定する(写真では付いていない)。なお復刻版では肩章用ボタンは別途購入が必要だ。

